



(文責) 校長 小松

学校教育目標

“ともに学び 心がふれあう学校”

令和5年度がスタートして早一ヶ月。昼休みの運動場では、さわやかな風の中、元気な生徒たちの声が響いています。5月の5連休中、生徒たちの様子はいかがだったのでしょうか？部活動では大会があった生徒もいたようですが、心と体をリフレッシュできたことと思います。学校では、5月28日に体育大会がひかえています。コロナでの制限も緩和されてきました。全力で取り組み、思い出の1ページを作ってほしいと願っています。



相知：見帰りの滝

せい あいちか ならい あいじお 性、相近し。習い、相遠し

論語の一節に「性相近し、習い相遠し」というものがあります。「人は持って生まれた能力にあまり差はないけれど、教育・環境・習慣・交友などの違いで大きな差ができてくる。」ということを教えています。子どもたち一人ひとりの人生に、家庭や学校、地域社会が価値観や環境など良い方向付けをすることがいかに大切なのかを思い知らされます。「三つ子の魂、百まで」と言われるように、心が柔軟なうちに、しっかりと「真・善・美」の価値観を育てたいものです。

「いい習慣はいい人生をもたらす。人間は習慣が作り出すものだ。」と言われるように、子どもに良い習慣を身に付けさせることは、これからの人生を希望に満ちたものにするにつながります。ちなみに、良い習慣とは、あいさつをはじめとする公共マナー、公衆道徳を身に付けることが基本だと考えます。

朝の「あいさつ」

毎朝、校門前であいさつをしています。できるだけ目を見てあいさつをするようにしています。自分に元気がない時にも大きな声であいさつするようにしています。すると、生徒たちの元気なあいさつがもどってきて、たくさんの元気をもらって活力がわいてきます。『あいさつ』には自分自身や相手を元気にする力があるようです。お互いに気持ちの良いあいさつを交わしたいものです。

そのような中、生徒の中に立ち止まってあいさつをしてくれる生徒がいます。お家の方のしつけなのでしょう、その礼儀正しさに感心しています。

表彰・・・鏡校区社会福祉協議会総会にて(令和5年4月22日)

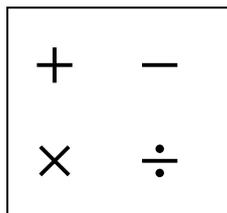
『自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト (S P E S)』チームが表彰を受けました。鏡中学校全体でボランティア活動やSDG sの視点に立った様々な取組が認められたものです。代表で笹山舜月さん 藤本実桜さんが表彰を受けました。そして、多くの人のなか、自分たちの取組をしっかりと情報発信することができました。協議会に参加されていた数名から「素晴らしい取組ですね。こういう取組が地域や日本、世界に広がっていけばいいですね。」ととてもありがたい言葉をかけていただきました。



善行(令和5年4月28日)

感謝の電話がありました。・・・市内の高校生が荷物を抱え、松葉杖をついて不自由そうに歩いていたところ、その様子を見て大変そうだと感じた鏡中学校の2名の生徒 3年 釣谷桃香さん、3年 吉田晏那さんが高校生の荷物を持って手助けをしてあげたそうです。とても素晴らしい行いです。

この行いを聞いて、思い出したテレビ広告があります。



「+」は、たすけあう
「-」は、ひきうける
「×」は、声をかける
「÷」は、わけあう

これは、人を笑顔にする算数 思いやり算

困っている友だちがいれば助け合い、損な場面は笑顔で引き受け、よく声をかけ合い、喜びも悲しみも分かち合う、思いやり算！！

人と人との間には、「人を笑顔にする算数」・・・「人を笑顔にする力」が備わっていることを生徒たちの姿を見て感じました。

鏡中学校体育大会のお知らせ(令和5年5月28日)

コロナ禍による制限も緩和され、素晴らしい体育大会を作り上げようと、実行委員長の釣谷桃香さんを中心に準備を頑張っています。そして、応援団長をはじめ応援リーダーやパネル責任者の生徒たちも本格的に練習や製作に取組をはじめます。

地域・保護者の皆さま、たくましく成長した中学生をぜひご覧ください。

大会スローガン 勇往邁進 ～我らの道を通り走れ～

**日時：令和5年5月28日(日) 開会式予定 8時30分
競技開始予定 8時50分**

